

# 家庭支える人で 古今東西に共通

大崎市古川の吉野作造記念館（佐々木源一郎館長）

は11日、同館で開かれている企画展「大正時代の女性と吉野作造」に合わせ、講演会「ルネッサンスの女性たち―家庭における役割と母性の表象―」を開いた。

講師は、東北大学院文学研究科専門研究員で文学博士の佐々木千佳さん。ベネチア絵画史を中心に15〜16世紀のイタリア・ルネッサンス美術史を専攻している。

この日は、県内から約50人が来場。佐々木さんはレオナルド・ダビンチ（1452―1519）やミケランジェロ（1475―1564）など、ルネッサンス時代に活躍した画家たちが描いた女性の絵を紹介しながら、「こ

東北大講師  
佐々木 千佳さん

の時代は神話の女神や聖母が人間味あふれる姿として描かれるようになり、『個』としての現実の女性に目を向けられるようになった」と説明した。

また、「当時の理想の女性像は家庭を支えてくれる人であり、そうした昔の人の価値観は、古今東西に限らず共通したものだと思う」と話していた。

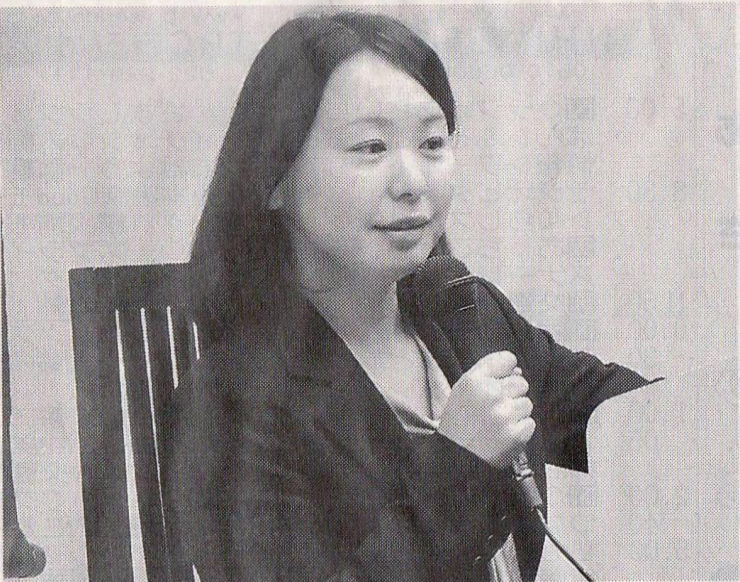
訪れた人は佐々木さんの話真剣な表情で耳を傾け、「この時代の絵は宗教的なイメージしかなかったが、母性など違った見方で説明され、とても新鮮だった」と感想を述べる人もいた。

企画展「大正時代の女性と吉野作造」は3月4日まで開催されて

いる。

問い合わせは、吉野

作造記念館へ。電話0229(23)7100。



講演する佐々木さん